

平成15年度 夏季特別フォーラム「指導と評価の一体化」

小学校分科会生活科

評価規準を活用した授業実践への取り組み

～単位時間における具体的な評価規準の作成を通して～

1 発表の概略

- (1) 単位時間における具体的な評価規準の作成
- (2) 評価方法、評価規準、指導・援助の具体化
- (3) 「おおむね満足できる」状況(B)を達成するための指導・援助



2 評価規準を活用した実践事例

対象学年 小学校 第2学年
学習指導要領 第1学年第2学年の内容 (2)家庭と生活 (8)自分の成長
単元名 「あしたへジャンプ」 (全21時間)

単元目標

自分の成長に関心をもち、進んで聞いたり、調べたりして、成長を振り返ることができる。また、自分の役割を意欲的に果たしたり、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとするすることができる。

(生活への関心・意欲・態度)

様々な手がかりをもとに、工夫して自分の成長を振り返り、分かったことや成長したことや支えてくれた人々への感謝の気持ちなどを表現することができる。また、自分でできることなどについて考えることができる。

(活動や体験についての思考・判断)

大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長には多くの支えがあったことに気付くことができる。また、成長を支えてくれた人に感謝し、成長への願いや夢があることに気付いている。

(身近な環境や自分についての気付き)

- (1) 単位時間における具体的な評価規準の作成
 - ・評価規準の作成手順に従い、きめ細かな評価規準を作成することにより、単位時間における活動時の評価規準の子どもの姿がより具体的なものになる。

活動内容における評価規準

	ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
活動の内容における評価規準	<p>家庭でのお手伝いについて意欲的に自分の生活を振り返り、発表しようとしている。</p> <p>1年生の頃と比べて、できるようになったことなどに関心をもち、進んで調べようとしている。</p> <p>小さい頃の様子に関心をもち、その頃のことを知るための手掛かりを探そうとしている。</p> <p>自分が大きくなったこと、自分でできるようになったことなど、自分の成長を意欲的に伝えようとしている。</p> <p>自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを伝えようとしている。</p> <p>3年生に向けて希望や期待をもちながら意欲的に生活していこうとする。</p> <p>自分の成長を振り返り、現在家庭で行っていることを続けていこうとしている。</p>	<p>1年生の頃と比べてできるようになったことを中心に表現することができる。</p> <p>様々な物を手掛かりとして、過去の自分と現在の自分を比較し、成長を表現することができる。</p> <p>これまでの自分の成長について、自分なりの方法で表現することができる。</p> <p>成長の喜びや感謝の気持ちを表現することができる。</p> <p>友だちの成長ぶりを知り、現在のよさを伝えることができる。</p> <p>成長の喜びや感謝の気持ち、これからの成長への願いなどを表現することができる。</p> <p>家庭生活においても自分でできることを増やしたり、家族の一員としての自分の役割を考えたりすることができる。</p>	<p>自分でできることを進んですることが大切なことに気付いている。</p> <p>1年生の時の様子を振り返り、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる。</p> <p>小さい頃のことについて発表することを通して、自分が大きくなったことや、心の成長に気付いている。</p> <p>自分の成長を喜んだり、励ましたりしてくれた多くの人々の存在に気付いている。</p> <p>友だちの手紙の内容から自分の成長をさらに実感している。</p> <p>1年間の作品やファイルを整理し、2年生の自分の生活などを振り返ることを通して、自分の成長に気付いている。</p> <p>これからも成長できることや、成長への願いや夢があることに気付いている。</p>

指導と評価の計画

時	ねらい (記号：10の視点)	学 習 活 動	評価規準と評価方法	指導・援助
6 本 時	<p>自分の小さい頃のことについて、友だちに発表することを通して、自分や友だちの小さい頃のことについて知り、これまでの成長に気付くことができる。</p> <p>(イ)</p>	<p>小さい頃の思い出の品物を見せ、その頃の様子を発表し合う。 (グループ発表)</p> <p>自分の小さい頃のことについて話したり、友だちの小さい頃のことを知ったりしよう。</p> <p>友だちの話の内容などを、今日の学習の観点から振り返り、気付いたことを書く。</p> <p>学級全体で、特に教師が取り上げたい児童2～3名の話を書く。</p> <p>小さい頃の思い出の品物に手紙を書く。</p>	<p>・自分が大きくなったこと、自分でできるようになったことなど、自分の成長を意欲的に伝えようとしている。 <ア - > (発表の様子)</p> <p>・小さい頃のことについて発表することを通して、自分が大きくなったことや、心の成長に気付いている。 <ウ - > (物への手紙)</p>	<p>・調査カードを事前に集め、一人一人の把握をするとともに、過去の自分と現在の自分と比較し、自分の成長に気付いている箇所を評価し、発表の意欲化につなげる。</p> <p>・小さい頃の思い出の品物や調査カード、聞いてきた話については、友だちに「ひみつ」にすることを約束し、本時の学習の意欲の高揚を図る。</p> <p>・今の自分と比べてどう？と投げかけ、成長に気付くようにする。</p>

単位時間の展開例

(1) 本時のねらい

自分の小さい頃のことについて、友だちに発表することを通して、自分や友だちの小さい頃のことについて知り、これまでの成長に気付くことができる。

(2) 本時の位置 6 / 21時

(3) 展開案

過程	学習活動	評価規準と評価方法 () 評価方法	指導・援助
つかむ	<p>1, 小さい頃の思い出の品物などをグループの中で見せ合う。</p> <p>2, 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 自分の小さい頃のことについて話したり、友だちの小さい頃のことを知ったりしよう。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> 冬休みの課題で、小さい頃の思い出の品物や小さい頃のこと分かる物を探すよう、学年通信や生活科便り、保護者に依頼しておく。 (家庭の事情には十分配慮する。) 自分の持ってきた物を隠す子には、話を聞き自信をもたせる。 家庭での調べる学習に調査カードを活用し、「見つけたよカード」に記入し、本時の発表に使用し自信をもって話せるようにする。
活動する	<p>3, 今日の学習で聞くときの観点を確かめる。</p> <p>4, 小さい頃の思い出の品物を見せながら、その頃の自分の様子について発表する。(グループ発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞く観点をもち、発表後一人ずつ観点をチェックする。 友だちの小さい頃のことわかった。 初めて知ったよ・大きくなったね(一言書く) <p>5, グループ発表の中で、本時のねらいに迫る姿が見られた児童の発表を教師が捉え、数名の児童に意図的に全体の場で発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小さい頃の様子がよく分かる発表 持ってきた物について、そのこととかかわっていた周りの人のことについて発表していた姿 自分の気持ちや思いを語る児童の姿(全体発表) 	<p>関心・意欲・態度</p> <p><ア></p> <p>自分が大きくなったこと、自分でできるようになったことなど、自分の成長を意欲的に伝えようとしている。 (発表の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> うれしそうに話している。 自信をもって話している。 自慢気に話している。 持ってきた物を提示して話している。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に一人一人の様子を把握するとともに、過去の自分と現在の自分と比較し、自分の成長に気付いている箇所や、自分の感じたこと、気付いたことを記入している児童の評価をし、発表の意欲化につなげる。 発表に自信のない子など、気にかかる児童については、調査カードで事前に発表内容を確認、よく調べてあるところを認め安心して自信をもって発表できるよう援助する。 十分な調べ学習ができていない児童については、事前の面接により、理解を深め、記入できるようにしたり、さらに調べるとよいことを話し合せて意欲を図るようにしたりして援助する。 発表が苦手な児童には、カードに赤ペンを入れて、内容のよさを認め、励ます。
振り返る	<p>6, 全体発表で、友だちに対して今の友だちの姿と比べてどうであったか、感想を発表する。</p> <p>7, グループの友だちに、チェック表を参考にしながら、「大きくなったね・すごいね・よかったね」のメッセージを書いて送る。</p> <p>8, 友達からもらったメッセージを読み、活動を振り返り、振り返りカード(持ってきた物へのお手紙)を書く。</p>	<p>気付き<ウ></p> <p>小さい頃のことについて発表することを通して、自分が大きくなったことや、心の成長に気付いている。 (振り返りカード)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今の自分と比べている。 自分の持ち物に愛着をもっている。 友達のメッセージから、自分の変化に気付いている。 感謝の気持ちをもったり、これからの自分の在り方についてまでも考えたりしている。 成長を喜んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今の自分はどうか？と問い返すことで、話の内容の点で、現在と過去の自分を比べるように投げかける。 自分が持ってきた思い出の品物へのメッセージに、評価の視点に基づいた児童の姿が見られたら価値付け、学級全体に広める。

(2) 評価方法、評価規準、指導・援助の具体化

< 評価の観点は1～2観点とする >

< 実践例；本時 >

- ・ 児童に基礎的・基本的な力が身に付くようにするため観点を絞る。
- ・ 1単位時間内、時間終了後に確実に評価できるようにするためには、評価の3観点すべてを評価する必要はない。
- ・ 単元の全時間を通して、活動内容に見合う単位時間において、3観点を位置付ける。

生活への関心・意欲・態度
自分が大きくなったこと、自分ができるようになったことなど、自分の成長を意欲的に伝えようとしている。

身近な環境や自分についての気付き
小さい頃のことについて発表することを通して、自分が大きくなったことや、心の成長に気付いている。

< 評価の方法を明記する >

- ・ 本時に評価する評価規準を「何によって、どのように」評価するかを決定する。
- ・ 活動内容によって選択する。
- ・ 評価方法が複数ある方が子どもの姿がより明確に見える。

・ 発表の様子
(補助簿の活用：記録を残す)

・ 振り返りカード
(教師の朱筆によるコメント・アンダーライン)
(教師と子どもとの対話)

< 評価規準を評価の方法に応じて、より具体的ににする >

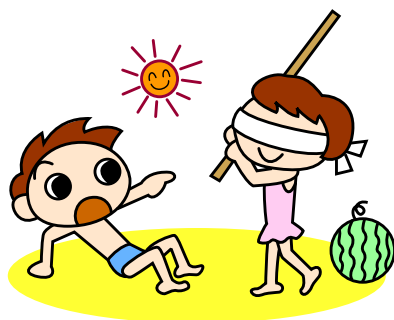
【意欲的に伝えようとしている姿】

【大きくなったこと、心の成長に気付くこと】

- ・ 抽象的な言葉を具体的な子どもの姿として明確にして評価規準とする。
- ・ 具体的な姿が多くあると、短時間に的確に評価できる。
- ・ 評価に迷いが生じない。

・ うれしそうに話している。
・ 自信をもって話している。
・ 自慢げに話している。
・ 持ってきた物を提示して話している。

・ 今の自分と比べている。
・ 自分の持ち物に愛着をもっている。
・ 友達からのメッセージから自分の変化に気付いている。
・ 感謝の気持ちをもったり、これからの自分の在り方についてまでも考えていたりする。
・ 成長を喜んでいる。



< 具体的な指導・援助の手立てを指導目的に応じて位置付ける >

【生活への関心・意欲・態度】

- | | |
|----------------------|---|
| ・小さい頃の思い出や品物を探せるように | 事前に学年通信や生活科便りで保護者に依頼する。(家庭事情に十分配慮する) |
| ・発表の根拠となるように | 調査カード「見つけたよカード」に記入し発表に使用する。 |
| ・発表の意欲化のために | カードで発表内容確認、成長に気ががある個所等にコメントを入れる。 |
| ・自信をもって話せるように | カードで記入内容を確認・評価し、調査内容に安心感をもたせる。 |
| ・調査カードを充実させるために | 調査カードが不備な場合、事前に話し合いをして、理解を深め記入できるようにする。 |
| ・品物を堂々と見せられるようにするために | 事前に話を聞き、自信をもたせる。 |

【身近な環境や自分についての気付き】

- | | |
|--------------------|---|
| ・現在と過去の自分を比べられるように | 話の内容により、「今の自分はどうかな？」と問い返す。 |
| ・気付きを価値付けするために | 自分が持ってきた品物へのお手紙の中で、気付きの価値の高いものを学級全体に紹介する。 |

単位時間の中に、評価規準や評価方法、指導・援助を位置付けると、

- * 指導の計画が充実する。
- * 個に応じた指導が充実する。

(3) 「おおむね満足できる」状況(B)を達成するための指導・援助

【評価を個に応じた指導に生かす上での配慮事項】

- * 評価を単なるチェック機能としてとらえ、チェック中心の評価方法に終始していると、メモやチェックリストの作成に追われてしまう。
- * アプローチする評価方法(問いかけ・対話・会話の分析など)を多くもてるよう意識すると、評価したことをその場で児童に伝え、意欲化、気付きの自覚化を図るという指導に生かすことができる。
- * かわりの意図を明確にして、指導・援助する。
- ・直接的なかわりとしては、「声をかけること」「見守ること」「例を示すこと」「やって見せること」等がある。
- ・「声をかけること」は励ます・促す・受け入れる・説明する・例示する・暗示する・整理する・焦点化する・問いかける等の意図をもつ。

< 「おおむね満足できる」状況（B）に達していないと判断した児童に教師の的確な働きかけや援助により、「おおむね満足できる」状況（B）とした事例 >

事例1：生活への関心・意欲・態度について ～ A男への対応～

普段の学習状況から「おおむね満足できる」状況（B）に達することが困難だろうと判断

< 今までの学習の様子から予想できるA男の反応 >
恥ずかしそうに発表する。持ってきた物を隠す。下を向いて話をする。

教師の指導・援助

【教師の指導意図】

発表が苦手で、グループ内発表となると緊張してしまうと予想されるので、まず教師が十分に話を聞くことにした。（対話）

* 発表内容を確認め、よく調べているところをほめ、安心させる。
* 持ってきた物について、話を聞き、自信をもたせる。

うれしそうに、持ってきた物を出しながら話す。 「おおむね満足できる」状況（B）と判断
日頃はあまり見られない笑顔で話をする。

事例2：身近な環境や自分自身への気付きについて ～ B男への対応～

カードにより「おおむね満足できる」状況（B）に達していないと判断

今の自分と比べること、電車に対する愛着が薄い。

教師の指導・援助

【教師の指導意図】

カードの確認・内容の肯定をして安心させる。
友達からのメッセージカードがかかわりをもたせるために有効と考える。
（声かけによる話の焦点化）

* 友だちからのメッセージ
「B男君は初めて明知線を見て、電車が好きになったのだね。それからは電車のおもちゃを買ってもらって、電車で遊べるようになってよかったね。」
* 教師の声かけ
「明知線を見て、電車が好きになったのだね。B男君の大切なものだね。」

「ぼくが小さい時に一緒に遊んでくれてありがとう。また一緒に遊んでね。」
自分の電車のおもちゃに愛着もてた。
今は使っていないけど、小さい時にいつも使っていたことを振り返ることができた。 「おおむね満足できる」状況（B）と判断